

資料 2

令和7年度 研究報告

自ら課題に挑み 自立して学ぶ力を身に付ける子の育成

指導の個別化に着目して個別最適な学びを深める

高取小学校

「個別最適な学び」の定義と背景

中教審答申が示す2つの視点

- ① 指導の個別化：児童一人一人に合った方法で

目標を達成できるよう指導すること。

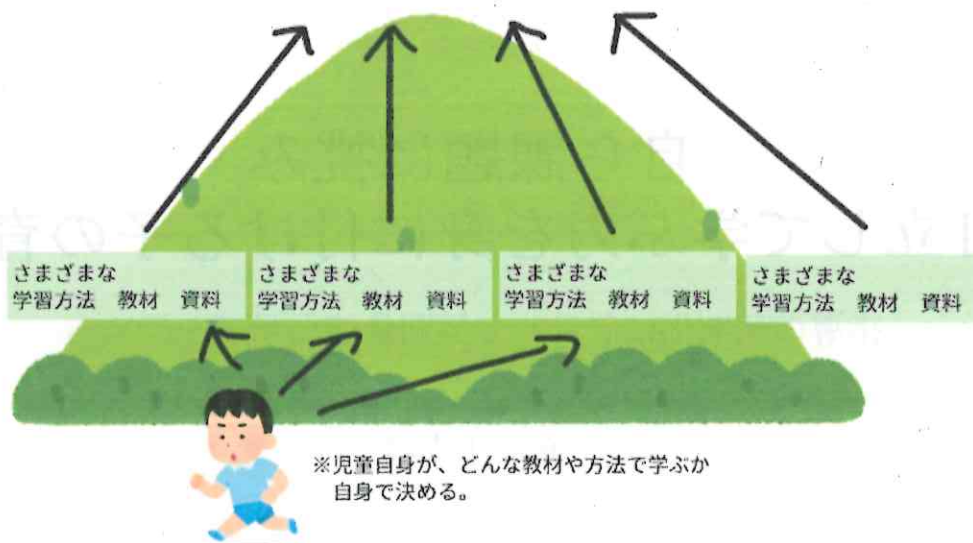


- ② 学習の個性化：興味・関心等に応じた異なる目標に向けて

学習を深め、広げること。



学習の目標



学習の目標



※目標や学習内容が児童によって変わり、達成したい課題の難易度も異なる。
例 体育科のマット運動（全ての技を練習するが、個々によって目指すレベルが違う）

今年度の研究のポイント



指導の個別化への注力

現在の授業形態において、全員が異なる目標を持つ「学習の個性化」の追求は難易度が高い。そのため、今年度は「一つの共通目標を多様な方法で追究する」指導の個別化に力を注ぐ。



自己調整の重要性

児童生徒が「自ら学習を調整」しながら進めていくことができるよう、教師が適切な環境と手だてを用意することを旨とする。

目指す子ども像

自ら課題に挑み、
自立して学ぶ力を
身に付ける子

- 「自ら課題に挑む」：与えられた状況から課題をつかみ、自ら解決しようと継続して取り組むこと。
- 「自立して学ぶ力」：自分に合った方法で学習を進め、課題を自分なりに解決できるようにすること。

研究の仮説

仮説1 児童の思いに沿って授業の導入の工夫をしたり、自ら学習を進める見通しをもたせたりすれば、課題の解決に向かい、継続して取り組むことができるであろう。

仮説2 一人一人の異なる目標に向けて学習を進めることができる環境を用意すれば、児童自身が自分に合った方法で学習を進め、自らの課題を自分なりに解決できるようになるだろう。

仮説に対する4つの具体的な手だて

手だて1: 導入の工夫

児童の思いに沿って単元や授業の導入を工夫し、自ら挑もうとする課題意識をもたせる。

手だて2: 見通しの提示

自ら学習を進めるための全体像や計画を提示し、学習のプロセスを可視化する。

手だて3: 選択できる環境

活動内容や学び方が自分で選択できる多様な学習環境（コーナー設置等）を用意する。

手だて4: 振り返りの活用

次時につながる振り返りの方法を工夫し、課題や成果の蓄積を促す。

手だて1: 導入の工夫

児童の思いに沿って単元や授業の導入を工夫し、自ら挑もうとする課題意識をもたせる。

1年生 生活科の実践

だ

手だて2: 見通しの提示

自ら学習を進めるための全体像や計画を提示し、学習のプロセスを可視化する。

4年生 図画工作科の実践

手だて3: 選択できる環境

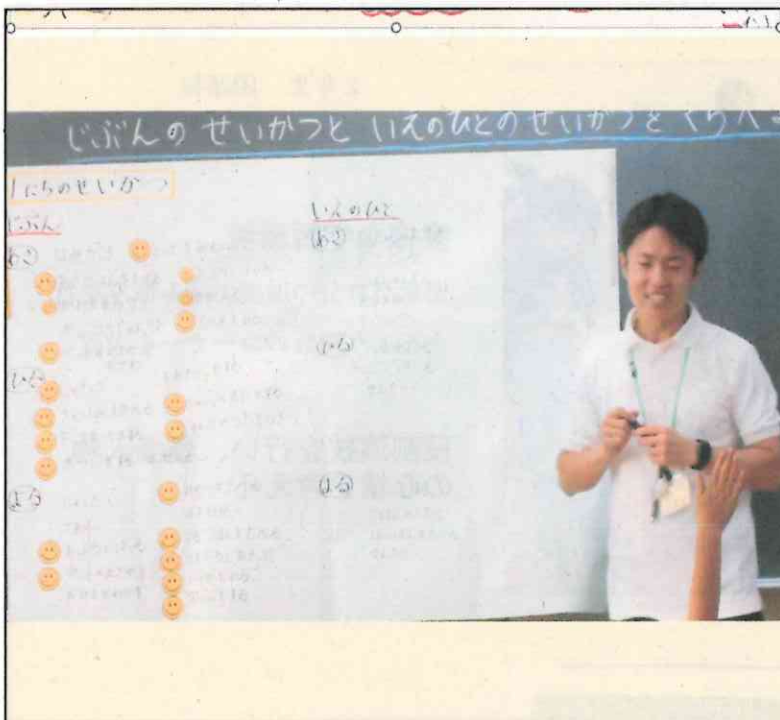
活動内容や学び方が自分で選択できる多様な学習環境（コーナー設置等）を用意する。

2年生 国語科 3年生 算数科の実践

手だて4: 振り返りの活用

次時につながる振り返りの方法を工夫し、課題や成果の蓄積を促す。

5年生 社会科の実践



1年生 生活科
導入の工夫

- ・自分と家族の生活を比べ、家族には自分たちより「笑顔が少ない」ことに気づく時間を設定

「家族をもっと笑顔にさせたい」という強い動機付けにより、手伝いや自分のことを自分でする活動に、単元の最後まで意欲的に取り組むことができた。

★計画書★

日付	時間	今日は何する? (試す・作る・みる)	ふりかえり (できたこと、工夫したこと、次の時間にやってみよう)
10/3	①②	試す・作る・みる	次の時間はわり橋を牛にわパクにつけて
10/8	③	試す・作る・みる	次の時間はいるはなの作品をみて
10/10	④	試す・作る・みる	今日はわの完成したの次はわの
10/15	⑤	試す・作る・みる	今日はわの動画をたの次はうせの
10/31	⑥	試す・作る・みる	みんなの作品みれたの次は

じぶんのせいかつと いそひとのせいかつと うへ

4年生 図画工作科

見通しの提示

- ・「試す」「作る」「観る」活動を、自身の進度に合わせて計画。最初の4時間を「観る」に設定し、友達の工夫をじっくり観察した後、後に制作を開始する児童もいた。
- ・学習進度に合った計画を自分で立てられたことで、途中で諦めることなく、高い意欲を維持して完成させることができた



★計画書★

2年生 国語科

多様な学習環境

児童が自分の進度で読み取りを行えるよう複数のコーナーを設置

役割演技を行い、登場人物の心情を考える



2年生 国語科



音読を行い、内容を確認



2年生 国語科

実物に触れて、物語の世界観を体験する



2年生 国語科

多様な学習環境

- ・児童自身で自分に合った学習方法を選択していた
- ・多様な方法があることで、様々な角度から問いを考えることができた

音読の録音を聞いて、一人でじっくり考える



3年生 算数科

多様な学習環境

- ・児童が自分の進度で学習を行えるよう複数のコーナーを設置
- ・いくつかのレベル別コースに分けて、自分に合った方法で学習を進める



ミニ講座を受ける





3年生 算数科



ヒント動画を視聴



3年生 算数科

ヒント付きの
ワークシート

- ・児童自身で自分に合った学習方法を選択していた
- ・普段、早く進んでしまう児童も、繰り返したり、立ち止まったりして、深く考えていた



5年生 社会科



振り返りの活用

- ・水産業の学習にちなんで、魚型のワークシートを使用
- ・疑問や分かったことを蓄積していく
- ・書く欄が足りなければ、新しいものをつなげていく

研究の成果：児童の変容

研究の仮説

具体的な成果と児童の変容

導入・見通しの工夫

- ・単元の最後まで課題解決に向けて真剣に取り組む姿が見られた。学習計画の修正を通じた自己調整が促進された。

選択できる学習環境

- ・苦手意識のある児童が立ち止まって学習したり、得意な児童が応用活動で深めたりと、個に応じた進度が保障された。

振り返りの活用

- ・思考が蓄積され、次時の課題（問い）が明確になった。自身の成長や成果が目に見える形で可視化された。

今後の課題

1. 振り返りの視点の精査

「学んだこと」と「次の目標」が混在するケースが見られた。振り返りの質を高めるための視点の整理が必要である。

2. 目標設定と連動した導入

単元の終末まで何を目指すのかを明確にするため、目標設定の方法を導入段階からより精査して構成する必要がある。

